

香港株式市場フラッシュ

香港の金取引国際センター構想と「痛金(トンジン)」グッズ人気

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2026年2月25日号(2月25日作成)

“香港を金取引の国際センターとする構想”

中国は、香港を金の国際取引センターにしようという構想の下、香港を中心に金(ゴールド)市場への影響力を高めようとする動きを加速化している。香港政府は100%出資の清算機関「香港貴金属中央結算系統」を立ち上げ、年内に試験稼働を開始する見通しだ。さらに3年以内に金保管施設の容量を2000トンに引き上げ、中国本土の上海黄金交易所との連携を深める方針だ。また、中央銀行である中国人民銀行も、外貨準備に占める米国債の量を減らして米ドル依存度を下げる狙いから、1月末まで15カ月連続で金保有量を増やしている。

中国は金の産出量と消費量が世界最大だが、価格はインフラの整った欧米が基準となっている。価格形成における影響力が高まり、香港が金現物取引の中心として機能すれば、アジアの近隣諸国の実需家は、現在のようにわざわざロンドンで受渡しをするよりも輸送コストなどが下がり、利便性が向上する。

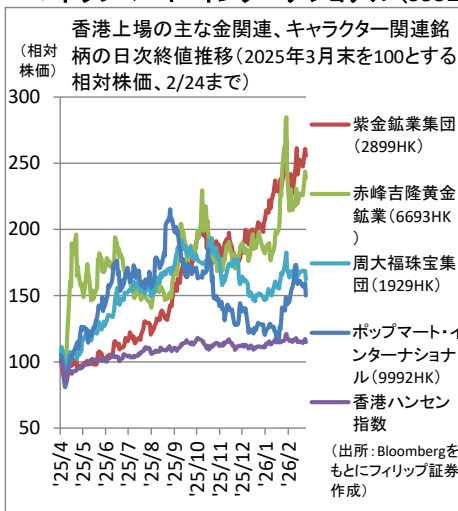
政府主導で価格形成への影響力を高めようとする中国に対し、世界最大の現物取引市場であるロンドンは、米JPモルガンや英HSBCといった民間の清算会員が受け渡しや決済、保管庫の提供を担い、取引は相対取引で中央清算機関を介さない。業界団体のロンドン地金市場協会(LBMA)によればロンドンの金庫に保管されている金の量は9158トンに上る。なお、米国のニューヨーク連銀の地下金庫には、主に世界各国の中央銀行や国際機関などから委託という形で保管されているゴールド・バー(金ののべ棒)が約6300トン(2024年時点)あるとされる。

中国本土の金鉱会社も海外で権益確保に動き、政府の取組みに歩調を合わせている。香港株式市場を通じた資金調達金が金鉱会社の海外展開を支えている。紫金鉱業集団(2899香港)の海外部門である紫金黄金国際は2025年9月にIPO(新規株式公開)を果たし、約280億HKD(香港ドル)を調達。民営金鉱会社の赤峰吉隆黄金鉱業(6693香港)も上海との重複上場により香港で株式を公開した。

“「推し活」と金のコラボ「痛金(トンジン)」グッズが人気化”

中国を発信地として、キャラクターなどの知的財産(IP)を使った金の宝飾品である「痛金(トンジン)」グッズが人気となっている。中国ではキャラクター人気が高まり、キャラクターグッズを意味する「谷子(グーズ)」という造語が生まれたほか、キャラクターグッズで飾ったバッグである「痛包(トンパオ)」などの「痛文化」が広がってきている。痛金製品を売り出している周大福珠寶集団(1929香港)のような宝飾品大手の業績への追い風となっている。個人の消費者にとって痛金を買う目的は、キャラクターへの「推し活」だけでなく、金価格の上昇で価値が高まる可能性があることも大きい。

中国はインドとともに金宝飾品の需要大国であり、世界の金需要に大きな影響力を持っている。特に目立つのが若い世代の需要増である。中国において世代別で金の宝飾品を持つ割合を見た場合、2025年は18~24歳の割合が62%と6年前の25%から拡大している。痛金の存在で若い世代が金の価値を知り、金の宝飾品に愛着を持つようになってきている。中国発の人気キャラクターを擁する玩具メーカーのポップマート・インターナショナル(9992香港)への追い風が見込まれる。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全100銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20260224 基準日: 20260224

順位	2025年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位
1	新鴻基地産発展[サンファンカイ・プロパティーズ]	47.1 3
2	創科実業[テクトロニック・インダストリーズ]	37.3 6
3	華虹半導体[ファホン・セミコンダクター]	36.5 2
4	葉明生物技術[ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	29.5 5
5	香港鐵路[MTRコーポレーション]	26.0 13
6	恒基兆業地産[ヘンダーソン・ランド・デベロップメント]	25.5 25
7	Pop Mart International Group Ltd	24.6 1
8	信義瑞瑤控股[信義ガラス]	24.3 7
9	紫金鉱業集団[スー・ジン・マイニング・グループ]	23.4 18
10	無錫葉明康徳新薬開発[ウーシー・アプテック]	23.3 10

順位	2025年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位
100	携程旅行網[トリップドットコムグループ]	-26.6 100
99	金蝶国際軟件集団[キングディー・ソフトウェア]	-25.0 99
98	Meituan (美国)	-21.2 98
97	Tencent Music Entertainment Group	-17.2 90
96	網易[ネットイース]	-16.4 96
95	騰訊控股[テンセント・ホールディングス]	-13.2 91
94	舜宇光学科技(集团)[サニーオプティカル・テクノロジー]	-11.4 95
93	小鵬汽車	-11.0 97
92	小米集団[シャオミ]	-9.1 94
91	Zhejiang Leapmotor Technologies Ltd	-8.0 92

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2026年2・3月:中国主要経済指標】

- 2月11日(水)
 - 1月消費物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+0.8%、結果+0.2%
 - 1月卸売物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲1.9%、結果▲1.4%
- 2月13日(金)
 - 1月資金調達総額: 前回35.60兆元、結果7.22兆元
 - 1月新規人民元建て融資: 前回16.27兆元、結果4.71兆元
 - 1月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+8.5%、結果+9.0%
 - 1月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.37%、結果▲0.37%
- 2月24日(火)
 - 1年ローン・プライムレート: 前回3.00%、結果3.00%
 - 5年ローン・プライムレート: 前回3.50%、結果3.50%
- 2月24日(火)~28日(土)
 - 1月対外直接投資<前年同月比>: 前回▲9.5%
- 3月4日(水)
 - 2月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.3
 - 2月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.4
 - 2月(RatingDog)製造業PMI: 前回50.3
 - 2月(RatingDog)サービス部門PMI: 前回52.3
- 3月7日(土)
 - 2月外貨準備高: 前回3.399兆USD
- 3月10日(火)
 - 2月貿易収支: 前回+1141.4億USD
 - 2月輸出<前年同月比>: 前回+6.6%
 - 2月輸入<前年同月比>: 前回+5.7%
- 3月16日(月)
 - 2月小売売上高<前年同月比>: 前回+3.7%
 - 2月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+5.9%
 - 1-2月不動産投資<前年同月比>: 前回▲17.2%
 - 1-2月固定資産投資<前年同月比>: 前回▲3.8%
 - 2月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲13.0%
 - 2月調査失業率<前年同月比>: 前回5.1%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。